

## 危険生物1：スズメバチ

### ハチとは

ハチの仲間（膜翅目に属する昆虫）は、日本では約 5000 種。

そのほとんどが他の昆虫などに寄生する寄生バチ

人を攻撃するのは、その中の極一部

スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチの仲間

スズメバチ上科のスズメバチ科スズメバチ亜科（3 属 16 種）

アシナガバチ亜科（3 属 11 種）

ハナバチ上科のミツバチ科ミツバチ亜科（1 属 2 種）

マルハナバチ亜科（1 属 14 種）に属するハチの一部

### スズメバチは

スズメバチ亜科のハチの攻撃性は、特に注意が必要である。

- 1、巣を一つの単位として集団で棲息
- 2、役割の分担をしている エサ集め、巣作り、幼虫の世話、外敵からの防衛など
- 3、カスト分化である 女王バチ、働きバチ、オスが存在
- 4、スズメバチの成虫の栄養源は主に樹液や果樹などの炭水化物

### スズメバチの活動時間

一日の活動は、空が明るくなり始める早朝四時半ごろから、暗く始める夕方まで続く。

活動の盛んなときは、午前と午後の二回ずつある。早朝と夕方がもっとも盛んで、あとは午前十時ごろと午後三時ごろも出入りが多くなる。出入りするハチの数がやや少なくなるのはお昼前後で、これは、一番日差しが強い時間帯を避けているためだと思われる。

### 危険性

フェロモンを噴霧し、仲間のハチも興奮状態となり集団で外敵を攻撃する

毒液は興奮物質として仲間のスズメバチを刺激する

1匹のハチの刺されると毒液が空中に放出

仲間のスズメバチに対して興奮物質として作用

仲間のハチの攻撃を誘う

スズメバチが攻撃対象を追う距離は約 50 m

1：激痛

2：感受性の強い人はアナフィラキシーショックを起こすこともある

3：毒液による痛み、腫れ、患部の炎症、かゆみ、体温の上昇等が、  
刺傷後 10 から 15 分後に発現する。

4：毒液が目に入らないように注意する

## 攻撃の順序

人などの外敵が巣へ接近すると防衛本能で警戒から攻撃までに4つの段階がある

### 1、**偵察**：偵察蜂による警戒

巣の数メートル～10メートル以内→外敵の周囲を飛び回って警戒

### 2、**警戒**：大声を出したり、過度な反応を見せると巣の表面に多数の蜂が出てくる →警戒態勢

### 3、**威嚇**：外敵の接近が継続すると「威嚇」行動を取る

外敵の周囲を飛び回る

大あごをかみ合わせて「カチカチ」と威嚇音を発する

### 4、**攻撃**：攻撃には二通りのパターンがある。

攻撃は蜂が噴霧するフェロモンにより興奮状態となる。

- ① 噛み付いたまま何度も刺す
- ② 外敵を数十メートル追いかける

## 攻撃パターン1：威嚇を無視する、振動を与える

→偵察蜂がフェロモンを空中に噴霧し、更に巣の働きバチが巣の中にフェロモンを噴霧し興奮状態となり外敵を攻撃する。

## 攻撃パターン2：巣へ直接触れる

→一斉に飛び出す  
威嚇無しに刺す

攻撃が顕著なのは夏から秋

とくに9月から10月・・・働きバチの数が増える

小さな花がたくさん集まってできる花

白い花

樹液：アベマキ、クヌギ、コナラ、アカメヤナギ、など

花 夏：ヤブガラシ、ノブドウ（ブドウ科）、キツタヤカクレミノ（ウコギ科）

イヌザンショウ（ミカン科）、アザミ、ノダケ、シシウドなど

花 秋：ホソバヒイラギナンテン（メギ科）の黄色い花、ヤツデ（ウコギ科）

サザンカ、チャノキ（ツバキ科）の花など

1：見たらとにかく離れる、逃げる

2：手で払うことは絶対にしない

3：スズメバチの習性を理解する

4：スズメバチに突然遭遇する危険性のあることを念頭に置く

5：スズメバチの巣があるような場合には、巣の近くで大声を出すことや、強い振動を与えたりしないように注意する

6：「黒色」を攻撃する性質があるので、白っぽい服装のほうが安全度は高い  
蜂が襲うときは、黒くて動くものをめがけて突進してくる

目玉が一番狙われやすいので、襲ってきたら目を手で覆ってさっと伏せる

また、目玉だけでなく、他に「スズメバチが狙う人間の体の部位」に関するデータがある。

頭部：22% 右手：22% 顔面：19%

脚部：12% 左手：16% その他：15%

7：次のものは蜂を刺激する場合があるので注意する

ヒラヒラするもの、純毛製のもの、香水やヘアスプレー、虫避けの超音波発信機、ジュースの臭いなど

9：偵察蜂に遭遇した場合は、頭（黒色）を隠し姿勢を低くして、ゆっくりその場を離れる

10：蜂は前後の動きには鈍感であるが、左右や急激な動きには敏感であるので、蜂を手やタオルなどで払うのは危険。

11：巣の近くほど蜂が群れている。その逆の方に逃げる。落ち着いてその場を離れる。あわてて振動をたてて逃げると蜂は勢いを増して襲ってくることもある。

12：追ってきたら、巣から遠ざかる方向で地面に伏せる。ジーと動かずにしゃがみこんでいると蜂は巣に戻る。蜂がいないことを確認してから静かに移動する。驚いたりして逃げ回るほど、動くほど、蜂は襲ってくる。大勢で騒ぐほど蜂はいきなり立って襲ってくる。いたずらに蜂を刺激しないこと。

13：必ず帽子を着用し、なるべく長袖、長ズボンを身に着ける。

14：たとえ肌の上に留まったとしても飛び去るまでじっとしておくこと

15：直接見えない地中などに巣を作ることも多いので、野山ではやたらと茂みの中に入らない。

## 処置

### 1：患部からの毒液除去

針が刺さっている場合はすぐに抜く

身体に回る毒成分の量を減らすため、できるだけ速やかに毒液を口或いは市販の器具ポイズンリムーバーを用いて吸い出す。あるいは手で押し出す。

野山に入るときは、水と抗ヒスタミン剤の軟膏、そしてポイズンリムーバーを持っていると安心である。

### 2：毒成分の不活性化

スズメバチの毒は水溶性（蛋白質）なので、すばやく刺傷部位を流水でよく洗い出す  
20%タンニン酸軟膏、3%タンニン酸アルコール、渋柿の汁などを指された直後に、患部に塗り、後に水洗いをする（アンモニアの使用は無意味）

## 3治療

患部の腫れや痛みには冷湿布をし、

抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏を塗る患部をよく冷やす

患部を冷やして、迅速に医療機関で手当てを受ける

#### 4 アレルギー性症状（アナフィラキシーショックについて）

人によりアレルギー反応の程度は異なりますが、身体各所或いは全身の蕁麻疹、だるさ  
息苦しさなどの症状があるときは、次回の刺傷に十分な注意が必要

スズメバチの毒が一度人間の体内に入ると、体が覚える。そして二度目に入ったときに、毒に反応  
して抗体という体を守る物質が体内でつくられる。これを「免疫反応」という。

ときには、この反応が必要以上に起こって体をショック状態にしてしまうことがあり、それを「ア  
ナフィラキシーショック」という。

痛いとか、ひどく腫れるというのを乗り越えて、心臓の動きが弱まったり、  
呼吸がしにくくなったり、全身にじんましんが出たりして、命を落とすことがある。

症状を起こす可能性のある人

- 1：過去にハチに刺されたことがある。
- 2：アレルギー体質である
- 3：心臓に持病があるなど、特異な体質である

当てはまる人が野山に入るときは、  
事前に、「エビペン」という緊急用の医薬品の処方を、主治医に相談すると良い。  
万が一、エビペンを使った場合も、必ず、すぐに病院へ行く

以上